

インターバンクの声（2017年8月2日）

昨日の東京市場の昼前にドル売り・円買いが進んだ局面では、辛うじて110円01銭で踏み止まり110円割れを免れた円相場だったが、結局ニューヨーク市場で109円94銭までドル売りが進んだ。

弱い米経済指標やトランプ大統領がホワイトハウスのスカラムチ広報部長を更迭したことなどを背景に円高バイアスが強まっていたが、東京市場でドル安が進んだ際には機関投資家によるドル買いのほか、ディーラー間で「110円ちょうどに大きな買いオーダーがあったようだ」などの噂も飛び交い、そこからはニューヨーク市場の朝まで徐々にドルの買い戻しモードとなった。

ニューヨーク市場の朝方に発表された6月の米個人所得は低調で、個人消費支出(PCE)物価指数もFRBの目標値を下回ったもののドル売りとはならず、市場は翌日のADP雇用統計や週末の雇用統計待ちになっている雰囲気もあった。

それでも110円台中盤まで戻った水準では一旦利食いが出るような雰囲気でも油断はなかったが、案の定、突如ドル売りに動き出した。

どうせなら指標発表直後にすぐ反応して欲しいが、相場に文句は言えない。米ISM製造業景況指数も市場予想を下回ってドル売りを加速させたが、昨夜はそこまだった。やはり雇用統計の結果が気になっているのだろうか。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。